

2024年5月28日(火)

老球の細道801

「オラ！ スペインへ」②

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

電車の中、車の中、いずれも自分が運転しないかぎりは読書タイム。そこにコーヒーのお供が付きそえば至福のひとつ、人生の句読点である。ある週刊誌の中に昭和29年に95歳で亡くなり「憲政の父」と呼ばれた政治家・尾崎行雄の言葉が載っていた。「人生の本舞台は常に将来にあり」。書いたのは94歳の時、亡くなる年に書いている。

これを元総理大臣・小泉純一郎が次のように評していた。「94歳になって、自分の本舞台がいつ来るかも知れない。そのために常に向上心を持たなければいけない、自分を高める努力をしなければいけないという、そういう言葉だと私は受け止めています」。

若松駅の売店で何気なく買って来た週刊誌の中にこれだけの言葉が載っている。新幹線で読んだこの言葉を胸に、睡眠不足を背負って成田空港集合場所に向かった。

【2014年 2月4日(火)】

10時55分集合のところ待ちきれず1時間前に到着。もちろん誰も来ていない。運良くソチオリンピックに向かうスキージャンプ日本代表コーチ原田雅彦氏に出会った。テレビのインタビューを受けていたが、今やスポーツのトップアスリートは芸能人並みである。いいんだか悪いんだか……。マスメディアに振り回されながら今回の五輪も……。

今回のツアー参加者11名のうち5名が会津地区からの参加。元会津ミニ会長佐々木靖男氏(故人)、佐竹信夫氏(ボンズユースコーチ)、佐藤公希氏(城北ミニコーチ)、星博之先生(若松商業高コーチ)、そして私。それ以外の6名はいずれも海外通のバスケットボール狂ばかり。筑波大学監督で元全日本の監督・吉田健司氏も一緒だった。しかも、吉田氏は私たちとのスペインコーチツアーを終えると、スペインからそのままフィンランド経由でリトアニアに渡り、そこでまたバスケットの研修をするという。リトアニアは昨年のヨーロッパ選手権準優勝の強豪国でバスケットボールが国技になっている。国を代表する指導者はそのくらい凄いチャレンジをしている。

飛行機はエールフランス航空AF275便。非常に大きな飛行機で飛行中ほとんど揺れなかった。墜落するのではないかという心配が起らなかったのは今までの海外旅行では始めてである。しかしその一方で、機内が寒すぎてダウンジャケットが必要だった。成田からパリまで11時間。パリで乗り換えのために3時間待ち。さすがにファッションのパリ、空港内もおしゃれのセンス抜群である。建物が北京オリンピックのメイン会場のような鳥の巣スタイル、トイレの便器、壁の色調が赤や青など原色を使った派手派手カラー。今自分がフランスのパリにいるなどとは信じられなかった。

パリからスペインの最南端マラガまで約4時間。現地時間の23時15分に到着。現地の送迎バスにてホテルへ直行。成田からすでに18時間経過。興奮して眠れないので、有志とレストランでビールを飲みながら結束を図った。ビールは「サン・ミゲル」。かつてフィリピンのマニラでお世話になったビールである。なつかしいが、なぜ同じビールがスペインにあるのか。歴史をひもとくと、フィリピンはかつて「太陽の沈まない国」スペインの植民地であったからである。ビールからも世界史が学べる。長い1日が終わった。